

戸田康之さん『ろう教育 Part.1』

戸田です。よろしく。

今日お話しするのは、ろう教育についてです。埼玉県のろう学校での教育についてお話ししたいと思います。

今、埼玉県内のろう学校では、新しい考え方を取り入れた教育研究が始まっています。

その考え方とは、「デフフッド」。手話ではこのように表します。このデフフッドという考え方を取り入れた授業計画や教育研究が2～3年前から始まりました。

「デフフッド」とは何かというと、簡単に言えば、聴者に合わせるのではなく、ろう者である自分がありのままでいい。無理に発語を練習したり補聴器を使用して聴力を活用したり、他者に合わせて自分を変えたり合わせたりすることなく、ろうの世界のろう文化にいる手話を使う自分のままでいい、ということです。

社会に出れば壁にぶつかる時が必ず来ますよね。そんな時も、自分を無理に変えることなくありのままで、その壁をどうしたら乗り越えていけるか、他の聴者とうろうの自分とどのように意思疎通を図っていくかを自分で考えていく。これがデフフッドの考え方です。埼玉県のろう学校では、この新しい考え方を取り入れた授業を進めています。

今年、令和2年度の坂戸ろう学園、埼玉には大宮と坂戸にろう学校がありますが、そのうちの坂戸ろう学園が今年度掲げている教育目標に驚きました。「デフフッド」という言葉が入っているんです。

「デフフッドの視点を踏まえた教育の充実を図る」

全国の公立のろう学校の中で教育目標に「デフフッド」が初めて盛り込まれました。これまではどのろう学校にもありませんでした。ふつう、ろう学校の教育目標というと、「残存聴力を活用して」や「発語の向上」など、聴者の社会に適応するために聴力の活用や発語の訓練をして日本語を身につけようとする内容がほとんどでした。

デフフッドの考え方はそうではありません。ろうとして生徒を育てる、聴者に適応するためとか近づくためということではなく、ろうである生徒をそのままに育てるということです。このような教育目標は今までになかったことです。

～つづく～